

令和3年度 学校評価  
自己評価及び学校関係者評価

坂戸市立桜中学校学校評価

2022/2/18(金)

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校経営方針『明るく、元気に、ていねいに』を、「特色」と捉えている。中でも『ていねいに』について、校長、教頭が範を垂れ全職員に浸透・徹底している。その結果、保護者・生徒・地域からの信用と信頼が得られて、桜中学校全体の明るく元気な雰囲気、学力向上と部活動の好成績へと結実している。</li> <li>・教職員が組織的に動いている。</li> <li>・朝鑑賞、学び合いが根付いて、気付けば特色ある学校になってきたと思う。</li> <li>・本校は、朝鑑賞および学び合い、さらには市内では一番積極的に取り組んでいる教員が多いGIGAスクール構想での授業実践と、他校に誇れる教育活動を行っている。数年前とは全く比べものにならないほど、生徒も落ち着いて積極的に学校生活を送っている。さらにはまた、数年前とは比べものにならないほど、学力向上を遂げている。県学調、全国学調の結果からも言える。何より、教職員が月に1度の学び合い授業研を行っているところは、近隣の学校にはない。中にいると気づかないかも知れないが、外から見ると、とても良き特色ある学校になってきていると思う。</li> <li>・朝鑑賞、学び合い、GIGAの3本柱で特色を出せているので、引き続き行っていく。</li> <li>・担当が変わっても継続して取り組めるように確実に引継ぎをしていく。色んな人が関わるようにする。</li> <li>・柔軟な取り組みをする教職員が多いため、プラスな改革が進む。やってみようとする姿勢を今後も大切にします。</li> <li>・昇降口の作品掲示等、今後も行っていく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校経営方針が全職員に浸透、徹底、その結果が保護者、生徒、地域からの信用と信頼が得られていることを評価。</li> <li>・朝鑑賞、学び合い、GIGAの三本柱の根付きで特色ある学校になってきていることを評価。</li> <li>・朝鑑賞、学び合い、GIGAスクールの三本柱での特色。</li> <li>・校長、教頭が範を垂れ、全職員に浸透、徹底している。</li> <li>・教職員が組織的に動いている。</li> <li>・校長先生、教頭先生をはじめ、先生方がとても明るく澆潤とされていて、その姿が生徒たちにも伝わっていることが、桜中全体の良さになっていることと思われます。</li> <li>・『朝鑑賞』という取組にとても感動し、これからも続けていきたいと思えます。</li> <li>・学校へ入ってすぐの作品掲示、部活動の大会の際の写真等、学校の良さがわかり、とても素晴らしいと思えます。</li> </ul>
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理マニュアルが、常にファイルにしまっております。</li> <li>・先生方の協力とチームワーク、および高い意識を持って、災害、事故やトラブルにも備えていると感じている。また、安全主任が意識高く取り組んでいるおかげで、数年前よりも質の高い避難訓練もできている。毎月の安全点検も、意識高くおこなっている。</li> <li>・月曜日に職員会議などを実施しているが、生徒は部活動を実施している。万が一大きな事故が発生した場合、顧問が責任を取るようになることが予想されるため実施には反対。</li> <li>・日常的に指導を行っているが、愛知県と同級生の事件のようなことが無いよう十分注意していかなくてはいけないと思った。マニュアルを作成してくださったおかげで、何かのときにバイブルとなります。ありがとうございます。</li> <li>・教頭先生が不祥事故について情報をこたあるごとに流してくれている。個人個人がテールリスクマネジメントをしっかりとしていけるようにすれば良いと思う。</li> <li>・トラブル対応については年度当初生徒指導部から出されている生徒指導の礎14ページや学校保健についての3ページに記載している。そのため、内容の再確認等をお願いすることとする。また、職員室に事故発生時のフローチャートの掲示を検討する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理マニュアル作成、整備による災害、事故、トラブル防止を評価。</li> <li>・不祥事、事故についての情報徹底活動を評価。</li> <li>・危機管理マニュアルの作成と活用。</li> <li>・質の高い避難訓練の実施。</li> <li>・昨今、いろいろなところで災害が起こってしまっているため、学校での危機管理も大変なことと思われます。月曜日に職員会議をなさる際に、生徒たちが部活動をする件については、顧問の先生方がいらっしゃらない際は、部活動は中止(休み)とするように決め、徹底されることも必要と思えます。何か起きては困りますが、そうなってしまった際は、すべて学校の先生方の責任に片づけられてしまうと思えますので、そうならない為にも必要かと思えます。</li> </ul>

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(共通項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校に限らず、部活が勤務時間外にある時点で『働き方改革』はないと思います。また、業務量も多すぎて、定時で帰ると授業もクラス経営も崩れ、子供たちの為にもならないと思います。定時で帰るためには、教員数を増やしていく他ないと思います。『ノー残業day』の呼びかけは毎週あります。</li> <li>・働き方改革に向けて、管理職、教務主任が業務内容の見直しを図ってくださっているのがありがたいです。</li> <li>・職員会議資料はタブレットも併用し、必要な先生は個人で印刷のスタイルにできれば、綴じ込みの手間も減るのでは？と思います。</li> <li>・スムーズな職員会議の進行は、準備段階から先生方の工夫があつてこそと思います。今後も継続したいです。</li> <li>・今年度からの簡単清掃。わずかではありますが、心の負担が軽くなりました。</li> <li>・計画的な年休については、考える余地がある。</li> <li>・会議の短縮化は進んでいる。</li> <li>・誰が悪いというわけではなく、この職業自体の問題だと思います。タブレットを使用して業務改善したり、ノー残業デーを設定したり、意識はしていますが、なかなか現状は難しいです。</li> <li>・働き方改革に関連して、授業時数と分掌を合わせて考えていくことが必要かと思いません。授業時数の多い先生は、それ以外の仕事が放課後等にまわってしまう事が多いと思うので。</li> <li>・分掌の仕事がチームとしての仕事でなく、個人の仕事になってしまっている現状だと思います。新しい仕事だったりすると、やる事がよくわからなかつたり途切れてしまい、続かない。学年会のように、分掌の部会が出来るような人数構成で組織できたらいいと思っています。</li> <li>・教務の心配り、気配り、細心の工夫により、会議などが効率化され有効に機能している。</li> <li>・定期テスト2日目も部活は行わない方が良い。2日目に試験が行われる教科の先生は採点の時間が思うように取れないため。</li> <li>・個人的には、昨年度より計画的に休暇の取得や残業時間の短縮に努めていると思います。しかし、全体的にはどうでしょう？なかなか取れない方もいらっしゃると思います。</li> <li>・昨年度の学校評価を生かし、日暮れの時間を基準にした、生徒の安全な下校時間への変更、留守番電話の導入等、前進はしている。しかし、根本的な働き方改革にはまだまだつなげていない。毎日遅くまで職員室で仕事をしている職員も少なくない。仕事があるから残って仕事をしている。仕事が多い、どこかを削ってほしいという声を大きな声で発している職員もいる。世の中の流れにそって、手をつけるところがあるのではないか。</li> <li>・ノー残業デーは設定されているが仕事が終わらないことが多い。(自分の力不足もありますが)</li> <li>・休暇をとるのが難しい。</li> <li>・働き方改革で夏は木曜日の清掃を無くし、部活動終了時刻を早めましたが、秋以降はただ部活動の活動時間が長くなっただけでした。本来の目的とは異なるので清掃を行うか、下校時刻を早めるかどちらかにしたほうが良いと思う。</li> <li>・定期テスト2日目に部活動を行っていますが、採点業務などが終わらないため、活動を控えてもよいのではないと思う。他の地域の学校でもそのようにしている学校も多い。</li> <li>・所見については夏休み、11月に三者面談を実施しているため、廃止または学年末のみ記述する形が良いと思う。また、廃止している学校も多々ある。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革に向けての管理職、教務主任の業務見直しの実施を評価。</li> <li>・会議の短縮化が進んでいることに評価。</li> <li>・管理職をはじめ、先生方が計画的に年休をとっていることを評価。</li> <li>・勤務体制の改善を図ることは大変に重要なことだと思います。特に時間に関しては、教員にとっては最重要課題であると考えます。特に、担任を持っていたり、部活動を担当していたりすると、それだけで年休の取得が難しくなります。是非、配慮していく必要があると思います。</li> <li>・まず、『B』としたのは、『働き方改革』と世間では言われていても、先生方はなかなか難しいことと思われまじし、この理想とは真逆に生徒たちの為に頑張り続けてくださっている先生方への敬意と、少しでも改革に向けて改善策が見出せればという願いを込めての評価とさせていただきます。</li> <li>・『ノー残業デー』の設定はされてもなかなか現状はそうではないようですので、部活動に対しての改革が必要であると思います。</li> <li>・以前、TV番組で野球の強豪校に密着した内容で、土曜・日曜のどちらか、また平日の練習も最大3時間まで、短縮授業の日には、17時には終了、その後は自宅に帰り勉強するという文武両道の学校でした。中学生はもちろん部活動も大切なことで、そこから学ぶこともいろいろあると思いますが、学生の自分の勉強を忘れてはいけません。顧問の先生は、長く練習をやればいいというものではありません。短い時間で自分たちは何が出来るのかを考えさせることも大切なこととおっしゃっていました。本当にその通りだと思います。何事も最初に取り組む時は心配や不安がつきものですが、思い切って月曜日の職員会議で顧問の先生がいらっしゃらない日は休みにする。また『ノー残業デー』の日は、生徒の最終下校時刻を決め、先生方もお帰りになれるよう、せめて、いつもよりは早くお帰りになれるよう、思い切って改革をなさってはいかがでしょうか。『ノー残業デー』と同様、先生方のお休みも研修や部活動、また中学は教科ごとの先生の為、重なったりすると難しい点等いろいろおありとは思いますが、『年休(有給)休暇マンスリー、ウィーク』等を決め、どんどんお休みをとって英気を養うよう、取り組んでいただきたいと思っています。先生方だってスーパーマンではありませんから、身体も心もお休みしていただく時間は絶対に必要です。どうぞ積極的に取り組まれてください。</li> </ul>

領域	NO	評価項目	自己評価	学校関係者 評価	学校関係者評価委員会の説明
			<p>自己評価についての評価の説明及び学校の考え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期テスト前の朝の登校指導については勤務時間外のため、2日間お願いするのは難しいことかと思う。2日間のうち職員を半分に分けて1日ずつ実施したりする方法もありだと思ふ。</li> <li>・今年は、管理職をはじめ先生方が計画的に年休を取っている姿が見られました。やはり、上の職についている方が姿勢を見せていただけると、私達も計画的に取ろうと気持ちになります。ノー残業デーは、昨年より意識して取り組むことができました。有効にと言われると言い難いですが、毎回教頭先生が周知をしてくださると意識できます。一番のカギは、空き時間をどう使うにかかっていると思います。私が桜中を去るころには、B1やA評価をつけられるように自分も頑張ります。</li> <li>・教頭先生がノーゼンデー・ふれあいデーの声かけをしているが、なかなか早く帰れない状況がある。</li> <li>・学年会が授業時間内にあると、時間割変更の融通が利きにくく、計画的年休を取得するにあたっては障壁になる。</li> <li>・通知表の「学校から(初見)」の項目の記入には勤務時間内外を問わず、膨大な時間を要する。また、所見を記入する時間を生徒と関わる時間や、教室整備などに充てたいという考えから、所見を廃止していただきたく思います。</li> <li>・テスト前の挨拶運動は、無くなってほしい。特に若手は、テストづくりに時間がかかるうえに遠くの挨拶ポイントに配置されるので、負担が大きい。</li> <li>・水曜日はノー残業デーなのに、委員会があるのはおかしいと思う。思い切って木曜日から火曜日に委員会を移す選択も必要なのではないだろうか。</li> <li>・ふれあいデーは部活動を無しの日にしてほしい。</li> <li>・部活動は、教員の善意で成り立っているということを生徒や保護者の方にしっかりと伝えてほしい。「部活の日数をもっと増やしてほしい」という保護者からの言葉が、重荷になり、休日に部活を仕方なく入れているという教師もいるように思う。</li> <li>・ノー残業デーも、仕事が終わらなければ、やらざるを得ないので、実際には形だけになってしまいます。</li> </ul> <p>(※定期テスト2日目は、顧問裁量で行わないことができる。Or 定期テスト2日目は基本、部活動は「なし」とし、部の大会等の状況により、顧問の判断の上、校長の許可を得て、部活動をおこなうことができる。)</p> <p>(※定期テスト前の朝の登校指導は、縮小の方向で今後検討していく。『コミュニティースクールの観点含む。』)</p>		

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、児童生徒にわかりやすく、工夫した授業をしている。 (市共通項目)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修機会が充実しており、授業改善につながりました。</li> <li>・特にタブレット使用方法など、気軽に先生方と意見交換ができたのが嬉しかったです。</li> <li>・学び合い学習やタブレットを活用した授業改善を積極的に行っている。</li> <li>・月1回の授業研や帯道徳で自然と互いの授業がみられるのはとても良いと思います。</li> <li>・タブレットの使用状況には大きく差があるので、本校は「先進校」というより「格差の激しい発展途上校」である。</li> <li>・毎週の朝鑑賞と、毎月の学び合い授業研究が、本校の生命線だと思う。また、タブレットを活用した授業を行い、学び合いの中で生かしている先生もいる。先生方は生徒たちの為に工夫して努力して一生懸命である。(その為、退勤時間もおそくなっているのだが…)</li> <li>・焦点授業などを通してしっかりと授業改善、生徒の様子を観察できていると思う。</li> <li>・研修部長が毎週研修部会を開いてくださるおかげで、学び合いの意識は非常に強くなっていると感じます。学力学習状況調査もまとめてくださり、各教科で研究し授業へとつなげることができました。</li> <li>・管理職が授業を参観することは大切なことだと思う。教員も研修日だけでなく、自由にふらりと教室に入ってお互いの授業を参観する雰囲気があるとよい。そして管理職は参観した授業に対し一言コメント、教員同士はコメントし合うことが大切だと思う。教員同士が学び合い授業力をつけ、子供たちが学び合う授業を展開する必要がある。</li> <li>・教員同士が授業を見合える環境が作られている。これからも継続していきたい。</li> <li>・タブレットを毎時間、充電ドッグに戻さなくてもよいような環境やルールを作っていくことが、タブレットを日常的に使う上で大切になるのではないだろうか。(※毎時間戻すと、移動教室などがあると時間がかかってしまい、大変であるため、帰りの会まで生徒個人で管理していく方向へ進めていく。)</li> <li>・タブレットの使用のルールは、市が定めているものに則っておこない、さらに校中のタブレット使用6か条も役立つ。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学び合い学習やタブレット活用による積極的な授業改善を評価。</li> <li>・毎週の研修部会開催による学び合い意識の向上を評価。</li> <li>・学力学習状況調査のまとめによる各教科ごとの研究および授業へつなげる取組を評価。</li> <li>・研修部長が毎週研修部会を開いている。学び合いの意識が大変に高い。</li> <li>・教員同士が授業をお互いに見合える環境がつけられている。</li> <li>・今年度より授業でタブレットの使用が始まり、その分、先生方のご苦労は大変なことと思われます。時代の流れと共に必要なものであるため、仕方ないことなのかもしれませんが…。ただ、今こうした世の中でタブレットのお陰でオンラインの授業もでき、良いことであることも聞きました。まだまだ課題の多い授業方法であると思いますが、熱意のある校中の先生方には引き続き生徒たちへの思いやりのあるご指導をお願いしたいと思っております。</li> </ul>

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の授業がより一層充実してきた。</li> <li>・豊かな心を育む授業に取り組んでいる。3年生の「命の授業」もそうである。また、教職員が一生懸命に授業を準備して生徒たちに提供する「学び合い授業」そのものが、豊かな心を育む授業になっている。</li> <li>・教員が豊かな心をもって授業を行うから、豊かな心、豊かな環境の中で豊かな心を育む授業が成立する。今後も豊かな心をもって、生徒たちへの『学び合い授業』を展開したい。</li> <li>・なかなか少人数指導を実施している授業が少ないと感じる。ただ、職員も多いわけではないので難しい部分もある。</li> <li>・道徳教育主任が中心に、命の教育、計画から実施、まとめまで冊子なども作成し進めてくださいました。校務分掌まで丁寧にされていて真似したいなと思いました。</li> <li>・道徳が教科化されて3年目。すべての学年で道徳は実践されていて、生徒は好意的に授業をとらえていると感じる。道徳を深く学んできていないので、自分の道徳の授業が良いのか毎回迷いを感じる。</li> <li>・3年生の「いのちの学習」は大変生徒から高評価であった。単発な取り組みと捉えられないように、1年次からの「いのち」にかかわる取り組み(体育・道徳・理科・家庭科・その他の教科等々...)を生徒に提示し、そのうえで、中3の2学期にやる必要性をオリエンテーションのために講師をお招きしての講演会を3回行った。性教育を単発でやることは生徒にとってとても雑なことである。新しいことを取り入れるということではなく、養護から出されている全体計画を踏まえて、様々な教科・行事等で取り組んでいることを系統だっって全体として行い、みんなで共有し次年度へ継続していく体制ができるとよい。</li> <li>・道徳の授業や3年生の「命の学習」など、生徒の心を育む授業は、充実していると思います。</li> <li>・性教育も充実を図りたい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳授業の充実を評価。</li> <li>・豊かな心を育む3年生の「命の授業」の高評価につき評価。</li> <li>・充実した道徳の授業が実施されているようだ。</li> <li>・教員が豊かな心をもって授業を行うから、豊かな心、豊かな環境の中で、豊かな心を育む授業が成立しているのだと思う。</li> <li>・すべての学年で道徳の授業がきちんと実施されている。</li> <li>・子供から大人へと成長していく過程で、心も身体も成長し、難しい年頃の中学生に一生懸命ご指導いただき、本当に有り難く思っております。</li> <li>・『命の学習』、拝見したく思いました。</li> </ul>
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取り組んでいる。(市共通項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直接かかわりの少ない方への挨拶がもっとできるように指導支援していく。</li> <li>・教員側からも進んで挨拶したほうが良いと思う。</li> <li>・忘れ物がありますが、授業前に教員に言いに来る素直さをこのまま大切に見守っていききたいです。</li> <li>・提出物に対する指導は、授業内でこまめに見届けるなどこちらも工夫をしていきたいです。</li> <li>・生徒の質は上がってきたが、こういう時にもっと貪欲に様々なチャレンジをしていきたい。</li> <li>・小学校のときよりは、挨拶が出来るようになったと思われる。</li> <li>・発信力を高めるためには、自己肯定感、自己有用感、自尊感情を高めることだと思います。他人を認める前に自分…</li> <li>・先生方の弛みない努力と生徒を思う教育活動によって、生徒は落ち着いた態度で生活し、授業に取り組んでいる。生徒たちは心で先生方の思いを感じているから、今のうちに育っているのだと思う。</li> <li>・どの学年も落ち着いて取り組めていると感じる。朝の会・帰りの会など、教師の話の間に友達と話したり、荷物を片づけたりすることを当たり前に行っているクラスがあるのが大変気になる。号令の仕方が教員によって違うことが生徒によっては混乱する生徒もいると感じる。礼をしてそのまま座らずに、号令係の「着席」の言葉を待って座る姿はとても素敵だと思います。</li> <li>・記述内容を見ても、生徒たちの学校での様子はかなり落ち着いてきたと言える。しかし、目立たないところや細かいところでは、まだ落ち着きのない様子が見られることもあるため、教員がよく観察していく必要がある。</li> <li>・挨拶を誰に対しても自分から行えるようにする指導、挨拶に限らず返事をきちんとする指導、授業の前後の号令は全校で形を整える(統一した形を再度確認する)といったように、細部まで見ていけると良いのではないかと。</li> <li>・生活態度をよりよい形にしていくことができれば、自然と学習態度もよりよくなっていくと期待したい。</li> <li>・あいさつは、さらに良くなっていくように、策を講じていく。しかし、まずは教職員が身をもって生徒たちに模範を示す。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学校での態度の落ち着きを評価。</li> <li>・あいさつの更なる向上を今後に期待。</li> <li>・生徒のあいさつは比較的良くできていると思う。基本的な生活ができてくれば、生活態度や学習態度もよくなっていくと考えられる。</li> <li>・昨年より片柳小の児童の登校の見守りを毎朝行っております。その際、桜中の生徒さんもよく見守っているのですが、皆、とてもきちんとあいさつをし、交通ルールを守って、小学生のお手本となっている姿に感謝しております。『先生方が身をもって生徒たちに模範を示す』、とても素晴らしいことだと思います。大人がきちんとした姿を教えるということは難しいと思います。自分自身、考えさせられるお言葉だと感じました。これからも素晴らしい先生方の姿を生徒たちに見せ続けていきたいと思います。</li> </ul>

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のために意欲的に取り組んでいる。 (市共通項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不祥事が起こると、学校は、教職員は、それまで築き上げてきた生徒や保護者への信頼が一挙に崩れていく。生徒、保護者に辛く悲しい思いや、逆にひやかしかかるような生徒や保護者も出てくる。学校を取り巻くすべての人たちに、いろんな意味で大きな動揺を与える。そして、真面目に取り組んでいる同僚が、辛い思いをしていく。だからこそ、当事者意識をもって、不祥事防止、不祥事根絶に取り組んでいくことが大事なのだと考える。起こってからでは遅いのだ。</li> <li>・不祥事のプリント毎回配ってくださりありがとうございます。</li> <li>・教頭先生が不祥事防止について繰り返し繰り返ししてくお話ししてくださっていることはとても大切なことだと思います。</li> <li>・先生方の意見は正々堂々と言いたいです。陰で言うのではなく、お伝えできるとよいと思いつながら言えない自分があります。</li> <li>・自分の中にルールがあり、そのルールに反する者を見ると、怒鳴りつけたり、陰口を言うといった姿が見られた。風通しが悪い。</li> <li>・決まったことが学年や学校全体で周知されておらず、戸惑う人がいる状況を何度か目にした。</li> <li>・風通しの良い職場づくりには、聞く耳が必要であると思います。</li> <li>・来年度も引き続き、教頭先生に資料を提示してもらい意識を高めていく。</li> <li>・職員室はもとより、教職員同士の言動に気をつける。</li> <li>・当たり前のことだが、全ての教師が全生徒を見ていくという意識を一人一人が持つていく。</li> <li>・倫理確立委員会を広く活用していく。</li> <li>・学校評価の流れからも、会議等の回数を増やしていくことは、あまりよいこととは言えない。よって、倫理確立委員会は、これまで通り企画委員会の中で取り組むほか、既存の職員会議や職員研修時に入れ込み、多少の時間をとることにより、今年度よりも多く、全職員参加型の倫理確立委員会の時間を増やしていく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不祥事防止の為にプリントの配布と、教頭先生による不祥事根絶についての繰り返し繰り返しのお話を評価。</li> <li>・倫理確立委員会の広い活用に評価。</li> <li>・不祥事防止の為に、繰り返し事例をもって全職員で研修する必要がある。</li> <li>・職員についても、態度や言動には常に気を配ることが大切である。</li> <li>・桜中の先生方は真摯に生徒たちに向き合い指導くださっていることがよく伝わります。よくニュース等で流れる悲しいニュースは耳にしたくはないので、今のまま生徒たちにご指導いただけると幸いです。</li> </ul>
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切にできる態度で接している。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温かく接している教員が多いと思う。</li> <li>・いろいろな教育相談の学習を進めていく必要があると思います。積極的教育相談の種々の方法や手段、自尊心を高めるための言葉かけ、不登校傾向にある生徒への対応などです。</li> <li>・例えば遅刻してきた生徒へ対しての接し方が、ここ数か月で大きく変わってきたと感じている。生徒が遅刻してでも来てよかったと思える接し方を先生が多くなってきていることを感じている。生徒指導部、教育相談部からの発信、取組が、学校をうごかしているのだと思う。これからも生徒一人一人を大切にできる職員集団でありたいし、益々生徒のこころをとらえ、支えることができる教職員として研鑽に努めたい。</li> <li>・強い指導も必要と思うが、ときどき教員が暴走していると感じることもある。</li> <li>・時間の短縮との兼ね合いが難しいが、生徒を残して指導したことについては、朝の職集で報告してもらえると他学年ので授業の際に助かります。</li> <li>・教育相談、生徒指導で連携していきたい。</li> <li>・生徒指導の際には冷静な対応をする。</li> <li>・緊急性のあるものは朝の職集で報告し、生徒指導担当者同士で連絡をとる。</li> <li>・遅刻してきた生徒に明るく挨拶をし、声掛けをする。</li> <li>・温かく接している教員が多い。例えば遅刻してきた生徒へ対しての接し方が、ここ数か月で大きく変わってきたと感じている。生徒が遅刻してでも来てよかったと思える接し方を先生が多くなってきている。生徒指導部会や教育相談部会での、生徒の心を鑑みた指導支援が徐々に根付いてきている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温かく、明るく接している教員が多いことに評価。</li> <li>・遅刻してきた生徒に対しての接し方を評価。</li> <li>・生徒理解、教育相談的な接し方、桜中の職員は生徒一人一人に対してとても丁寧な接し方をしているような気がする。大変に良いことである。</li> <li>・本当に桜中の先生方は生徒一人一人を大切に、温かく接してくださっていると思います。『遅刻してでも来てよかった』そういう想いで生徒に接し指導くださっていることを伺い、とても有り難く思いました。</li> </ul>

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級主任と協働して、埼玉県教職員互助会『学校に対する教材支援事業』に応募しキヤスター付きホワイトボードを獲得した。学校配当予算減額(前年度比30%減)状況でも、教育環境整備を推進できた。</li> <li>・生徒、保護者に対して、ていねいに対応していた。</li> <li>・特別支援教育コーディネーターや特別支援学級の教職員を中心に、特別支援教育体制の充実を図っている。例えば、ユニバーサルデザインの教室など、年々その意識も職員の中で高まってきている。また、個に応じた指導支援の意識も高まってきている。先生方の意識の高まりを感じている。</li> <li>・ユニバーサルデザインについてはプリントなどに使用されるフォントでユニバーサルデザインのフォントが職員室のデスクトップパソコンにしかない。各机上にあるノートパソコンにもあるとよいのだが…。</li> <li>・特別支援学級主任が、丁寧に連絡を取り合ってくれます。</li> <li>・これからも特支担当教員と交流担任との連携をしていき、特別支援教育体制を充実していく。</li> <li>・年度当初に特別支援教育体制について、教員全体に周知してもらう。</li> <li>・特別支援教育コーディネーターや特別支援学級の教職員を中心に、特別支援教育体制の充実を図っている。例えば、ユニバーサルデザインの教室など、年々その意識も職員の中で高まってきている。また、個に応じた指導支援の意識も高まってきている。教職員の意識の高まりを感じている。(学び合いやGIGAスクール構想におけるICTを用いた授業展開と同様、さらにユニバーサルデザインの推進も意識を高く進めていく。)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校配当予算減額の状況での教育環境整備推進を評価。</li> <li>・年度当初に特別支援教育体制についての教員全体に周知徹底を評価。</li> <li>・特別支援教育コーディネーターや特別支援学級担当の教職員を中心に、特別支援教育体制の充実が図られている。</li> <li>・個人個人への教育計画。</li> <li>・今年度は一度も応援団のお手伝いで向うことがなく大変申し訳なく思っております。ただ、昨年度伺わせていただいた際に、先生方が生徒一人一人の気持ち、行動を大切に温かく接してくださっていることにとても感動し、有り難く思いました。教室の雰囲気もとても温かく、先生方のお陰と感謝しております。また、お手伝いできることがあれば、遠慮なくご連絡いただければと思います。</li> </ul>
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動終了後の完全下校時刻が守れていない点が心配である。生徒の安全を考えての時間設定なのだから、しっかり守らせての方が良い。守れない部活は活動停止にするなどの措置も必要なのではないか。</li> <li>・教職員の姿そのものが安心安全な教育環境を作り出しているのではないのでしょうか。生徒が安心して学校生活を送ることができるのは、先生の意識と行動です。威圧的な指導を行う職員がほとんどといていない、寄り添って指導支援していく姿勢が、安心安全な教育環境をつくるのだととらえます。</li> <li>・校内の安全点検は月1回行っているが、これからも継続して行っていく。特別教室は安全で機能的な環境になるように、日々のチェックを定期的に行う。道具や器具などは生徒の目線に立って、使用の際や保管の際に安全かどうか確認を行う。不備等あれば早急に教頭先生へ報告する。</li> <li>・部活終了時間を守れていない件についての意見が複数出ているように、改善の余地がある。超えてしまうことが他の教員の負担になる。具体的には、活動の終了を少し早めて、最終下校時刻までに余裕をもって下校出来るように意識する。時間内に収まるように、その日の内容や取り組みを精査する。</li> <li>・生徒が安心して学べる環境となるよう、教師は指導の際、感情に任せて怒ることがないよう日頃から心がける。</li> <li>・下校時間は、生徒の安全を守っていくために必要なもの。部活動終了時刻も決まっている。生徒に時間を守るよう指導している私たちが、すべての時間において、始まりの時間のみでなく、終わりの時間も意識高く行っていくことを心がけ、実践していきましょう。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・威圧的でない、寄り添っての指導支援の姿勢を評価。</li> <li>・校内の月1回の安全点検の継続実施を評価。</li> <li>・学校生活の中では規律を守ること、特に、時間を守ることは大切である。また、施設の安全管理に関しても大切である。どちらも、安心安全の基本である。</li> <li>・部活動終了後の下校時刻を守れない、時間を守れないということは、社会に出ても困ることとなるので、しっかり守れるような策を講じていかなければならないと思います。下校時の安全を考えての下校時間が決められているのですから、生徒たちにはそういった先生方の思いもわかってほしいと思います。守れなかった部活は、翌日、最後の門を閉めることを全員で行う等、生徒同士で声をかけ、気遣いする。そうして、時間を守らせる意識を高めるといったような、罰という言葉ではなく、おのずと時間を意識する取組を考えることを生徒たち自身にやってもらうのはいかががでしょうか。</li> </ul>

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。 (市共通項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページは今年度担当の方が定期的に更新してくれている。</li> <li>・コロナによってさまざまな開いていく機会を逸している形になっているのが残念である。ただ、学級通信や学年だより、保健だより、進路だより、学校だより等々で、情報発信していることで何とか接点を持っている状況である。また、ホームページも前年度よりも更新ができています。半歩前進はしている。</li> <li>・ホームページがあまり更新していない(すみません…)</li> <li>・防犯に関する情報をマメールなどで周知してもよいと思う。</li> <li>・HPIに関しては、あまり更新されなかったかなと思います。忙しい中ですが、見る人もある程度いると思うので1カ月に1回はなにかしらの形で更新できたらいいなと思います。</li> <li>・応援団さんでもできる範囲で活動してくださっていました。</li> <li>・学級通信等で、学校の様子は保護者にはよく伝えられていた。</li> <li>・コロナがおさまり、開かれた学校づくりを目指せるとよいです！</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの定期的な更新および学級通信等での家庭や地域への情報提供を評価。</li> <li>・ホームページの開設や学校だより等でよく学校の様子はわかる。</li> <li>・各種たよりの配布。</li> <li>・評議員をさせていただいておりますので、桜中の学校だよりをいただき、いつも楽しみに拝見させていただいております。HPIに関しましては、お忙しい中、大変だと思うのですが、もう少し、更新回数を増やしていただけたらという思いがあります。また、これも限りがあるとは思いますが、マメールを学校応援団の方々(希望者のみ)配信していただけると、学校の状況がわかり良いと思うのですが、いかがでしょうか。できるようでしたら、配信していただけると有り難く思います。</li> </ul>
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度もコロナウイルス感染症の関係で、保護者等の諸活動の参加はできなかったが、後半は少しではあったが、活用を進めた。また、関係機関との連携は引き続き進めていきたい。</li> <li>・働き方改革だからと言って、校外パトロールを無くし、挨拶運動も変更しましたが良かったのか…。校門にあいさつ運動で保護者の方に来ていただいているのに、先生が誰もいない状況の時もあり、いかなものかと思いました。</li> <li>・コロナによって、地域の人材を呼び込むことが難しい状況に置かれた今年度であった。しかし、学校を応援しよう、一緒に子供たちを支援していこうという応援団の数は増えている。コロナの収束を待ち、家庭や地域と共に学校の課題、子供の課題を解決していく時を作っていきたい。</li> <li>・個人的には、英語のプロや総合学活、学級経営のエキスパートの授業やノウハウを学んでみたいです。ゲストティーチャーも機会があったら、お呼びしたいですね。生徒はやはりプロの話を聞くと、目が輝くので班と思います。</li> <li>・来年度は学校応援団の活用ができる状況になってほしい。</li> <li>・モーニングコールの在り方。</li> <li>・gigaを活用して、zoomなど使えば地域の人材を活用した授業ができるのでは。</li> <li>・来年度から、坂戸市全小中学校で学校運営協議会が立ち上がり、コミュニティースクールが広がっていく。例えば、モーニングコール等、家庭や地域にお任せできる場所はお任せし、私たち教職員は、学校で子供たちの学びに責任をもって教育活動を行っていく。地域全体で子供を守り育ていくコミュニティースクールの推進を行っていく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により、地域の人材との交流困難な中で学校応援団の人数増を評価。</li> <li>・感染症への対策もあり、なかなか地域人材の活用ができない状況である。残念なことである。</li> <li>・基本的には、桜中は地域の方々、学校応援団の方々のご協力で、教育活動にもご参加いただき、地域全体で学校の応援やお手伝い、生徒の見守りをしていると思います。ただ、昨年からの引き続きのコロナウイルス感染拡大防止を踏まえ、ご協力できなかった点から、今回は『B』にさせていただきました。</li> </ul>

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。(市共通項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こんなご時世なので、あまり小中で関わることはできなかったと思います。</li> <li>・来年度こそ工夫をして、進められたらと思う。</li> <li>・コロナで関わりは減ったが、その分スズキ校務のメッセージやリモートで連絡をとり合えている。</li> <li>・小中学校の情報交換をしていないわけではないですが、このコロナ禍で例年通りにはできていないように思います。</li> <li>・コロナの影響により、集合型の小中一貫の視点に立った取組はできなかったが、教頭、教務等、課題を共通する立場の人たちは様々な形でつながって、教育活動を推進した。今後、それぞれの分掌ごとでつながれる機会と教育活動の推進につとめたい。ただし、働き方改革の面も念頭に置いて進めるべきである。</li> <li>・小中情報交換会は、学習指導要領も改訂されたので年に1回は実施したほうがいいかなと思います。</li> <li>・教科ごと、領域ごとただどんなことをやっている、やっていない、具体的な話ができればお互いに何かヒントがあるかなと思います。また、中学教諭が小学校教諭を体験、また逆もできると、お互いの良いところを見つけられるのではと思います。</li> <li>・コロナ禍においてあまりできていないと感じます。</li> <li>・コロナ禍で関わるができなかったが、情報交換など連絡を取り合えていた。</li> <li>・コロナの状況を見て、できることを模索していく。</li> <li>・音楽会や体育祭でお互いの演奏や演技を見せられるようなことができるとよい。</li> <li>・総合の時間を使って、リモートで小学生からの質問などができるとよい。</li> <li>・授業の6時間目を利用して、小学生に部活参加をしてもらえるようにする。</li> </ul> <p>(※上記のことを踏まえ、来年度、該当分掌からの企画立案にて検討していく。)</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の困難な環境での情報交換活動等を評価。</li> <li>・今回の感染症拡大は通常の教育活動に大きな悪影響を及ぼしたと思う。様々な行事が中止になったり縮小されてしまい、本来なら行われる小中の多くの連携に必要な取組ができなくなった。今後、どのような取組をしたらいいのだろうか、多くの課題があるようだ。</li> <li>・この点も、No12の項目同様、コロナウィルス感染拡大防止の観点から、なかなか行えなかった等を考慮しての評価となりました。ただ、こうした取組は、どちらにとってもとても大切な教育活動であると思いますので、今後、この状況が続くようであれば、その中でもできることを模索していただいで取り組んでいただけたらと願います。</li> </ul>